



第15回  
さくらサミットin水上  
プログラム

桜から桜まで  
～ツーリズムと通年型観光～



平成16年

9月30日(木)・10月1日(金)



- 湯山小学校体育館
- 湯山小学校地域交流センター他

主催／水上村

さくらサミット シンボルマーク・さくらサミット憲章	3
ごあいさつ	4
タイムスケジュール	5
コーディネーター・パネリスト紹介	6
参加自治体一覧/地図	7
さくらサミット加盟自治体紹介	8
北海道静内町	8
宮城県柴田町	9
秋田県角館町	10
福島県富岡町	11
茨城県日立市	12
群馬県宮城村	13
埼玉県北本市	14
埼玉県幸手市	15
東京都北区	16
新潟県上越市	17
新潟県加治川村	18
長野県高遠町	19
岐阜県本巣市	20
奈良県吉野町	21
鳥取県西伯町	22
島根県木次町	23
島根県美都町	24
長崎県大村町	25
宮崎県北郷町	26
熊本県水上村	27





## さくらサミットシンボルマーク

さくらサミットのシンボルマークは、長野県高遠町で開催された第2回さくらサミットで採択されました。地球をあらわす円と桜の花びらで構成され、全体として人をイメージ化しています。人と人、まちとまちから始まるサミットの連帯・協力・調和が、グローバルな広がりを見せ、末永く継続していくことを表現するシンボルとして制作されたものです。

## さくらサミット憲章 (平成元年9月22日制定)

### Success

成功

第1条：  
今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

### Approach

接近

第2条：  
共通の目標に向け、ふれあいと連帯を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

### Keyword

言葉

第3条：  
まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見出します。

### Unity

調和

第4条：  
文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行うよう心がけます。

### Relation

縁

第5条：  
「桜」によって結ばれた縁を大切にし、互いに友好を深め、21世紀に向かって前進していきます。

### Agreement

合意

第6条：  
共通の目標に向け、ふれあいと連帯を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

## 水上村長 成尾政紀



全国各地から水上村へようこそお越しくございました。心より歓迎いたします。

水上村は、東は宮崎県と接する村で、富士川、最上川に並ぶ日本三急流の一つ「球磨川」の源流があることから、水上の名が付けられており、総面積約192km<sup>2</sup>、人口2,600人あまりの小さな村です。

さて、水上村のさくらは、昭和35年、村の中心部に球磨川をせき止めた市房ダムが完成した際、中学生やボランティアの手によってダム周辺に1万本の桜が植栽され、以来45年間風雪に耐え、現在の日本一の桜の里づくり運動の基盤となりました。当時の中学生の皆さんは、今年還暦を迎えており、懐かしい思い出として語り草になっています。

その後、昭和59年、後の総理大臣細川護熙氏が熊本県知事であったとき、熊本県でも日本一作りの施策がとられ、水上村は市房ダム湖周辺の桜を活かした「日本一の桜の里づくり運動」に取り組みました。植栽した本数も3万本に届くところまで進み、施設も徐々に充実し現在では県下でも有名な桜の名所として大きくクローズアップされてきております。桜の時期には県内はもとより、県外の宮崎、鹿児島、福岡からのお客様を含め約6万人の人出で賑わいを見せております。ただ、本村には有名な桜の古木もなく、また、桜にまつわる伝説も残っていませんので、この市房ダムの1万本桜は、村人が大切に育て上げた桜として長く語り続けることができる桜にしたいと考えております。

今回お集まりの市町村におかれましては、この水上村以上に桜に対する熱意は大きく、桜の名所として全国的に有名どころばかりでもありますが、今回のサミットのテーマ「桜から桜まで～ツーリズムと通年型観光～」という共通の課題について討議し、新たなまちづくりを展開できたならと考えております。

また本日は、水上村内はもとより各地でいろいろな取り組みをなされている6名の方々にパネリストにお迎えし、「これからのツーリズムとその可能性」をテーマにしたパネルディスカッションも開催いたします。

最後になりますが、第15回さくらサミットを本村において開催させていただくにあたり参加自治体の皆様はもとより、コーディネーターの篠田先生をはじめ、関係各位のご協力をいただきましたことを心から感謝申し上げますとともに、本日ご参加いただきました皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

於：湯山小学校体育館

## 9月30日(木)

13:00～ アトラクション (コーラス)

13:20～ サミット開会

13:50～ パネルディスカッション  
テーマ「これからのツーリズムとその可能性」

14:50～ 休憩 (10分)

15:00～ アトラクション (ふる里 北から南から)

15:30～ サミット全体会議  
テーマ「桜から桜まで～ツーリズムと通年型観光～」

17:00～ 共同宣言採択・次期開催地発表

17:20～ アトラクション (ダンス)

17:30～ 閉会

18:30～ 交流会 (於：湯山小学校地域交流センター)

## 10月1日(金)

8:50～ 集合

9:00～ 記念植樹 (癒しと健康のもり)

10:00～ 水の上の学校体験

12:00～ 昼食

13:00～ 解散



## 参加自治体地図



## コーディネータープロフィール



しのだ のぶお  
篠田 伸夫

- ・全国町村議会議長会事務総長
- ・前自治省消防庁次長

昭和18年鳥取県生まれ。昭和42年京都大学法学部卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、62年より岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。平成元年自治省振興課長、2年東京都総合計画部長、行政部長、5年岐阜県副知事を経て、9年1月より消防庁次長を務める。10年7月より財救急振興財団副理事長、12年4月より現職。

## パネリスト紹介

### ■谷川 渉氏 (水上村、農業)

村内の川内地区で、水の上の学校「タケノコ山で春を味わう学校 (コサン竹コース)」と「ひがん花の里をウキウキ歩く学校」のインストラクター代表を務める。

### ■久保田ツヤ子氏

(多良木町、旅館経営)

温泉旅館水上荘の女将。湯山温泉旅館組合の組合長。異業種のグループで立ち上げた「湯遊人」の代表的メンバーの一人。

### ■岩元 幸明氏 (熊本市、会社経営)

水の上の学校「森の暮らしを学ぶログハウスづくり」の平成11年度卒業生で、その後も水の上の学校の様々なメニューに参加。今年度の九州ツーリズム大学では講師を務める。

### ■井手 明彦氏 (水上村、農業)

農業のかたわら、水の上の学校の人気メニュー「森の暮らしを学ぶログハウスづくり」等のインストラクター代表を務める。

### ■鞭馬しづ子氏 (南小国町、農業)

女性を中心となって農業を通じてのふれあい交流を目的に作られた会「農花の会」のメンバーで、自宅では自家製素材をふんだんに使った料理でおもてなしをする「おもてなしサロン」を開いている。

### ■井手 修身氏 (福岡市)

株式会社リクルート地域活性事業グループ九州地区統括マネージャー。自称ツーリズムの伝道師。水の上の学校の立ち上げに尽力。

## 北海道静内町

### まちの概要

雄大な日高山脈と広大な太平洋に囲まれた「静内町」は、競走馬のふるさととして有名な日高地方の産業、経済、教育、文化の中核都市。

農林漁業の基幹産業をはじめ商工業、各種産業が発達した人口22,600人、10,300世帯の緑豊かなまち。

### さくらの概要

直線約7kmにもおよぶ“日本一の桜並木”として知られる二十間道路桜並木は、明治36年、当地を訪れる皇族等を迎えるために幅二十間（約36m）、延長2里（8km）という雄大な行啓道路として誕生し、大正5年から7年までの3年の歳月を費やし、当時の御料牧場職員の手により近隣の山々から、沿道を埋め尽くす桜が植栽された。

桜は、ほとんどがエゾヤマザクラであり、風雪に耐え、今も北の大地に春の訪れを告げる。

### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

四季折々の特色を生かしたイベント事業実施のほか、豊かな自然景観等の多彩な観光資源を最大限活用するべく、キャンプ場、森林公園等の基盤整備及び利活用の推進を図るとともに、競走馬のふるさとという地域産業を活かし、引退した有名な競走馬との再会を希望する牧場見学者に対応した案内所の運営等を実施している。

また、広域連携による観光事業の展開を図るため、近隣地域と連携した温泉施設スタンプラリー事業等を実施している。



## 宮城県柴田町

### まちの概要

仙台駅から南へ25kmに位置し、町の総面積は53.98km<sup>2</sup>、人口は39,496人の県南最大規模の町です。

柴田町は、藩政時代、伊達騒動で知られる原田甲斐と名門柴田家の城下町として栄えた「船岡」と、奥州街道の64番目の宿場町として栄えた「槻木」が昭和31年に合併して誕生した町です。

### さくらの概要

柴田町には、日本さくら名所100選に選ばれた「船岡城址公園」と「白石川堤一目千本桜」があり、東北有数の桜の名所として知られています。毎年「しばた桜まつり」が開催され、県内外から20万人を越す花見客で賑わいます。

「船岡城址公園」では、1,000本を越す染井吉野桜が咲き誇り、満開時には全山が桜色に染まります。

「白石川堤一目千本桜」は、町から大河原町に至る総延長8kmに約900本の染井吉野桜が植えられています。

### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

#### 柴田菊人形まつり

昭和45年から始まった「しばた菊人形まつり」は、東北屈指の菊産地としても名高い柴田町の秋の風物詩になっています。全国有数の規模と美しさを誇りながらNHK大河ドラマをテーマに、毎年、豪華絢爛な歴史時代絵巻を繰り広げてきました。宮城県内で唯一の菊人形まつりであるこの催しは、船岡城址公園の三の丸跡を会場に開催されます。昭和54年からは宮城県大菊花展も同時に開かれるようになり、県下の菊花栽培者が丹精を込めて作り上げた大輪菊をはじめ町菊の会による千輪咲き等、色とりどりの菊花が会場一杯に展示され、愛好家はもちろんのこと多くの観光客の目を楽しませています。

## 秋田県角館町

### まちの概要

秋田県のほぼ中央内陸部に位置し、面積156km<sup>2</sup>、人口約15,000人、4,900世帯、清流玉川と檜木内川の合流域に沿って北に開けた盆地の城下町。藩政時代から仙北郡北部の政治、経済、文化の中心として役割を担ってきた。元和6（1620）年の町並みが現存し、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。稲作が主要産業だが、伝統産業権細工でも知られている。

### さくらの概要

毎年春、武家屋敷のシダレザクラと川堤のソメイヨシノの並木、国指定2件のサクラが独特の景観を見せている。

藩政時代の武家屋敷が現存し各屋敷内に約400本のシダレザクラが植栽されている。

一方、まちの中央部を流れる檜木内川堤の2kmの桜並木は昭和9年天皇陛下の誕生を祝い記念植樹した。

シダレザクラは推定樹齢が100年～300年とまだまだ寿命とは言い難いが、武家屋敷内の生活環境の改善、観光客の増加などで生育環境が大きく変化してきている。

このため、平成11年度から緊急調査事業、翌12年度は保存管理計画を策定し、13年度から6年計画で土壤改良、保護柵設置等の保存事業を実施している。

檜木内川堤の桜並木は平成10～11年度保存管理計画を策定し、翌12～15年度まで4年継続で保存管理計画に基づき樹勢回復のための土壤改良や根系誘導工などの保存改良工事を実施した。この一連の事業は一般的に60年が寿命とされるソメイヨシノを植え替えしないで更新出来るか、ソメイヨシノの老木を有する全国の植栽地から注目されている。



秋田県角館町檜木内川堤桜並木

### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

当町には国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている武家屋敷が現存し武家屋敷の重厚なたたずまいとシダレザクラの花が過ぎた青葉の時期、紅葉、木枯らしに枝がなびき、冬には墨絵のようなそれぞれの風情は四季折々の鑑賞を楽しませ、四季をとおして観光客が訪れている。引き続き保存修理事業を実施、景観の維持に努めている。

しかし、年間220万人の観光客は通過型がほとんどであり滞在型に変えていく事が大きな課題になっている。町内には一般の宿泊施設が7施設、収容能力は373人あるが冬期間が長いこともあってなかなか増えていないのが現実である。

平成9年には都市間交流事業で改築され、現在3セクで運営している温泉付公共宿泊施設「花葉館」（定員125人）が年間宿泊者約2万人と民間を圧迫する勢いで増えている。

グリーンツーリズムについては農家の体験宿泊施設として数軒ある。最近時に注目されている「食の安全性」から農業体験を希望する宿泊者が多くなっていると聞いている。特に宿泊者からは体験でつくった本物のご飯「秋田こまち」がおいしいと好評のようである。



山車をぶっつけ合う「角館の秋祭り」

## 福島県富岡町

### まちの概要

福島県の太平洋側、浜通りの中央に位置し、人口約16,200人。東は絶壁が続く奇岩奇勝の海岸線、西は阿武隈山系。平成16年4月には常磐道常磐富岡ICが開通。首都圏から200km、JR特急及び車で約2時間30分。また、東北では唯一の奈良三彩の破片が出土するなど遺跡も多く、福島第二原子力発電所より首都圏へ電気を供給している「電気のみさと」でもある。

### さくらの概要

富岡町の夜の森の桜は、1900年（明治30年）、半谷清寿氏が荒野だったこの地を開拓。宅地周辺に300余本のソメイヨシノ桜を入植の記念としたのが始まりとされている。

その後、清寿氏の次男・六郎氏や地域住民に受け継がれ、花の町へと生まれ変わった。現在、町内に約2,000本、樹齢100年を超える桜も含めて、約2.5kmも続く桜並木となっている。平成2年には、日本さくらの会による「別選さくら名所」に選定された。



### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

町内の総合スポーツセンター内には、各競技施設や宿泊施設が充実。冬場に雪が無く温暖、夏場も海に近く涼しい。よって県内、県外、首都圏（東京六大学応援団など）からスポーツ合宿の利用者が訪れる。常磐道常磐富岡IC開通により、ますます首都圏との距離が近くなった。品川区民や富岡在京友の会員との交流事業もしており、温泉・スポーツ・観光・有機農作物（米、みそ、野菜）など、「電気」以外の新しい交流を展開。

また、観光協会「桜の委員会」は桜文募集事業の他、桜を一年中感じてもらえないかと桜の枯葉を利用した「枯葉イベント」を開催。落ち葉プールで宝探しや、木工クラフト教室を実施。使用後は、有機肥料作りにリサイクル。今年は桜にこだわって、「桜染め」にも挑戦中である。

## 茨城県日立市

### まちの概要

太平洋と阿武隈山地に囲まれた自然豊かなまちであり、日立鉱山から発展した、わが国を代表する産業都市である。

特色としては、市民運動が盛んで福祉事業や生涯学習、地域コミュニティからさくらのまちづくりまで、多くの団体が幅広く活動し、「市民との協働による新世紀の基盤づくり」を基本計画の目標としている。

### さくらの概要

大正初め、銅の精錬に伴い発生した煙害で荒廃した山々に、日立鉱山が「大島桜」など煙害に強い苗木を大量生産して植林したのが始まりとされる。

一方、市は昭和20年の戦災により焦土と化した市街地の復興と市民の安らぎの場を作るため、昭和20年代後半「平和通り」や「かみね公園」に「染井吉野」などの桜を数多く植栽した。この桜は平成2年「日本のさくら名所100選」に選ばれ、桜の季節には50万人近い観光客を集めている。

### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

①海水浴場管理運営事業 市内5つの海水浴場（川尻、会瀬、河原子、水木、久慈浜）を開設、運営している。

PR：埼玉、栃木、群馬方面へ夏の観光キャラバンを実施

②日立駅前イルミネーション事業

事業名：ヒタチ スターライト イルミネーション

概況：電球20万個北関東随一のイルミネーション事業として科学文化情報財団共同して日立駅前から日立シビックセンター周辺で実施。

③観光交流資源調査

近年の観光は、「物見遊山型」「体験観光」への幅広いニーズに変わりつつあり、さらに地域特性を生かした新しい切り口の「観光」の展開も必要となってきた。その素材となる資源の整理及び資源の発掘調査として実施し、報告書を作成した。今年度は産業資源活用検討連絡会を発足させ、モデルルートの策定を行っている。

## 群馬県宮城村

### まちの概要

群馬県では、赤城山、榛名山、妙義山を上毛三山といい、県のほぼ中央にある「赤城山」の南麓に位置する宮城村は、標高200mから赤城山頂約1,700mにわたる総面積48.49km<sup>2</sup>の人口約8,900人の農山村で、総面積のうち約54%が山林である。

産業としては、従来からの米作と酪農・肥育牛・養豚などの畜産が基幹産業である。「三夜沢赤城神社」などの史跡や「ぐんまフラワーパーク」などのテーマパークもあり、自然豊かな観光資源も多い。

今年の12月5日には近隣1市1町2村による市町村合併が控えている。

### さくらの概要

本村で桜といえば、赤城南面千本桜並木である。「桜名所100選」にも選ばれた県内でも有数の桜名所となっており、毎年4月には桜祭りが開催され、約2kmに渡って桜のトンネルを造り多くの観光客で賑わう。

しかし、植えられた桜（ソメイヨシノ）は約50年が経過し高齢化が進んでいるのも事実で、後継樹育成のため現在「桜の森公園」整備を進めており、先人達が残してくれたこの観光資源を永く後世に引き継ぐため、地域の人達と共に管理に努めている。



### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

宮城村は千本桜をはじめ、約3.5km松並木の下に見事に咲くつつじ群（5月）やフヨウ街道（8月）、そして、花のテーマパークであるぐんまフラワーパークがあり四季折々の花を楽しむことができる。そうしたことから、平成14年に「花の村」を宣言し県内外にPRしている。

平成15年には、「通過する村から滞在する村へ」を掲げ体験型観光を試みたところであり、あわせて多くの地域資源を活かしたグリーン・ツーリズムを推進するため、宮城村ふるさと地域づくり推進協議会、通称、「赤城南麓交流村」を立ち上げたところである。

この赤城南麓交流村では、「ふるさと宮城」を旗印に新しい観光形態として、フラワー・ツーリズムを含めたグリーン・ツーリズムを推進することとしている。



## 埼玉県北本市

### まちの概要

北本市は、東京から40～45kmにあり武蔵野の面影を残す雑木林が点在する緑豊かな住宅都市です。昭和46年11月3日に埼玉県内33番目の市として誕生し、まちづくりの方針に「ずっと住み続けたいまち、きたもと」を掲げ、経済・教育の活性化、便利で公正な行政サービスの提供、子育て支援の充実、自然環境の保全などに取り組みを進めています。

### さくらの概要

北本市の桜には、日本五大桜（福島県三春の滝ザクラ、山梨県武川村の山高神代桜、静岡県富士見市の狩宿の下馬ザクラ、岐阜県尾根村の根尾谷淡墨ザクラ）の一つで、大正11年に国の天然記念物に指定された樹齢約800年の「石戸蒲ザクラ」、市の天然記念物として指定され、樹齢約200年の「高尾エドヒガンザクラ」、ソメイヨシノの「石戸城ヶ谷堤」など桜の名所が数多くあり市民に親しまれています。平成7年には石戸蒲ザクラの後継樹や北本市に転入された方々の故郷から送られた11種182本の様々な種類の桜を植栽した「高尾さくら公園」を開設し、毎年市内外から多くの人々が訪れています。

また、市内の雑木林には、大宮台地における全ての自生種、ヤマザクラ、エドヒガンザクラ、シダレザクラ、ウワミズザクラ、イヌザクラが今なお健在に自生しており、街路樹として八重桜や企業内の緑地にソメイヨシノなど多くの桜が植栽されています。

### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

4月のみどりの日にみどりのフェスティバルを開催し、ウォークラリーなどを実施しながら身近な緑を感じてもらっています。

11月第1の土日に北本祭り（宵まつり、産業祭）を実施し、市内外より多くの見物客でにぎわっており、北本の秋の風物詩となっています。また同じ11月には「きくまつり」を開催しております。市の花「菊」の振興のために、菊を主体とした「きくまつり」を開催し菊に親しんでいただいております。小中学生の児童や生徒が丹精をこめて作った作品や北本菊愛好会の皆さんによる懸崖、盆用（三本立て）の展示のほか、福助作りなど広く市民にPRを行なっています。

## 埼玉県幸手市

### まちの概要

幸手市は埼玉県の北東部に位置し、東京まで約1時間、人口56,000人の緑豊かな住宅都市として発展している。江戸時代は日光街道の宿場町として栄えた。関東平野のほぼ中央に位置し、米作が多く行われている。今後予定される首都圏中央自動車連絡道のインターチェンジ建設に伴い、新たな産業基盤の整備が期待されている。

### さくらの概要

本市の権現堂堤には約1,000本の桜が1kmに渡り連なり、周辺に広がる菜の花畑とあわせて、花見の時期には多くの観光客で賑わっている。特に近年は都心方面からのバスツアーが増加傾向にある。この桜を保全するために平成9年・10年に実態調査を行い、これに基づき平成12年度～18年度の期間で桜保護工事を行っている。また、地域住民により組織された幸手権現堂桜堤保存会による堤の保全活動も活発に行われている。



権現堂堤の桜と菜の花

### 桜の時期以外での観光の取り組みについて



権現堂堤のあじさい

権現堂桜堤保存会により平成8年から権現堂堤にアジサイの植栽を行っている。現在までに65種5,000株が植えられ、新たな観光資源として平成13年から保存会主催による「アジサイ祭り」が行われている。今年は5月29日(土)から7月4日(日)に行われ、20万人以上の人々が訪れた。また、桜並木に沿ってヒガンバナを植えており、桜の季節が終わっても堤を訪れる人が絶えないように努めている。権現堂堤は大噴水や遊歩道が整備されている行幸湖（権現堂調節池）と吊り橋で結ばれており、全体が県営公園として整備が進められている。完成時期は未定だが将来的には年間を通して県民の憩いの場として活用されることになる。

## 東京都北区

### まちの概要

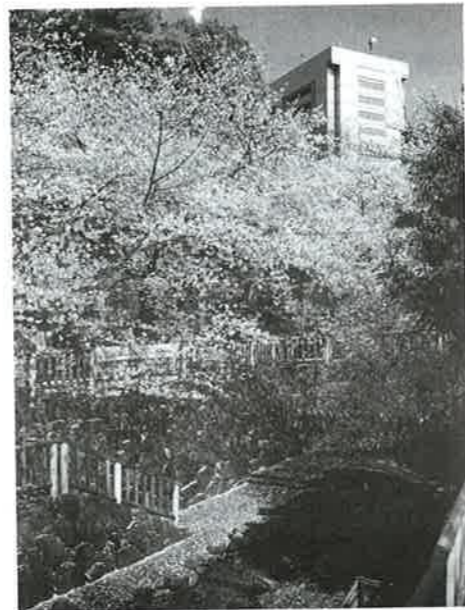
東京の北の玄関口に位置し、平成10年「第10回さくらサミット in 北区」が開催され、全国にさくら文化が発信された人口約33万人のまち。

桜の名所地「飛鳥山公園」に同年全国初の公・民営の3つの博物館が同時に開館したほか、東京初の防災センターや、旧古河庭園、桜の名所の岩淵水門などを有する。

### さくらの概要

東京の桜の名所の一つである飛鳥山公園は、徳川八代将軍吉宗の肝いりで1,270本もの「さくら」が植樹され、江戸時代の庶民の花見場所として全国的に知れわたった。歌川（安藤）広重や葛飾北斎のように、世界的な評価を受けている絵師が、飛鳥山の「さくら」を多数、錦絵に残している。

戦後数度の大規模改修が行われたが、現在では飛鳥舞台や井桁噴水など桜と水と自然石の調和による趣豊かな歴史公園として評価され、春には多くの花見客が訪れている。



### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

北区では、平成15年に観光振興事業の一環として、国・都が進める観光立国化への動きに呼応し、「観光会議」を設置した。

観光事業としては、観光ホームページ「歩きたくなるまち北区」による観光情報の発信や、「桜ウォーク」「まちあるき」等を実施している。

平成15年には江戸開府400年記念事業の一環として、東京商工会議所北支部との共催事業による「北区☆発見！フォトコンテスト」も実施した。

また、観光ガイドマップ（王子編）やウォーキングマップ・北区名品ガイドを発行し、区内外にPRしている。

## 新潟県上越市

### まちの概要

その昔、越後国府が置かれ、古くから交通の要衝として栄えた上越市は新潟県の南西部に位置し、市の西部には丘陵地帯、東部には高田平野が広がり、中央を関川が還流する商工業都市で、昭和46年に港町の直江津市と城下町の高田市が合併して誕生した。「市民本位のまちづくり」を基本に、安全・安心、元気なまちをめざしている。

### さくらの概要

ソメイヨシノを中心に約4,000本の桜が植えられている高田公園では、毎年見頃となる時期にあわせて観桜会を開催。ボンボリの明かりに照らし出され、お堀の水面に移る様は大変美しく、日本でも有数のものとして知られている。この桜は、陸軍第13師団の入場を祝い、在郷軍人団の呼び掛けにより集まった寄付をもとに、明治42年3月に2,200本の桜を植樹したのが始まりである。昭和55年、市の木として「桜」を制定した。



三重櫓と夜桜

### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

長い歴史に育まれた上越市は、戦国時代の名将 上杉謙信公の居城跡 春日山、親鸞聖人ゆかりの名刹の数々、日本のスキー発祥地 金谷山など様々な名所、旧跡を有している。今年度は市内の観光散策ルートモデルツアーを実施し、積極的なPRを行うことにより、観光客の増加を狙う。また、観光ボランティア育成事業を実施し、市民によるボランティアガイドが各イベントの中で観光案内をするなど、官民一体となりもてなしの心を持って観光客を迎えている。

新たな誘客のための宣伝広告としては、観桜会において高速バスの車体広告や、JR車内広告、東京駅でのPR活動を行い、入込数の増加が図られたため、はすまつりなど他のイベントにおいてもJR車内広告を行い誘客に努めている。

## 新潟県加治川村

### まちの概要

加治川村は、新潟県の北部、広い北蒲原平野のほぼ中央に位置しています。東に日本一小さい山脈「櫛形山脈」が、南には飯豊山を源とする「加治川」が流れている自然豊かな、桜とコシヒカリの里です。

快適なくらしの村づくり・いきいきした健康福祉の村づくり・こころ豊かな人を育む村づくり・開かれた行財政の村づくりの5つをキーワードにして地域づくりを進めています。

### さくらの概要

櫛形山脈の主稜のひとつ大峰山は、ヤマザクラの地として名高く、昭和9年には「椽平桜樹林」として天然記念物に指定されました。この桜は何万年も前に自生したものが老木となり枯れ、その根元から若木が出、それを繰り返すことで出来上がった桜樹の原始林で、長い年月の間に幾百種の変種が生まれ、現在40余種・約千本が群生、4月下旬から5月中旬に満開の姿を見せてくれます。また、櫛形山麓の5.2haの敷地に100種、約300本を植栽した「桜公園」を整備し、春には多くの方が公園を訪れます。



そして、加治川堤には、長堤十里、40キロに約600本が植栽され当時は日本一といわれた堤桜がありました。この堤桜は、昭和41年・42年に連続で発生し大きな被害をもたらした羽越水害で、堤防決壊の一要因ということで河川改修に伴い全てが伐採されました。その後、ぜひあの当時の姿を復元したいという声があがり、平成元年に旧建設省の「桜堤モデル事業」に認定、平成4年度から植栽を始め、最初のころに植えた桜樹は今、かなり大きく育ってきています。

## 長野県高遠町

### まちの概要

長野県南部に位置し、歴史と緑豊かな城下町。戦国時代に武将 武田信玄により本格的な城が築かれ、江戸時代には後に会津藩始祖となる名君保科正之を始め、内藤氏等により高遠藩3万3千石の城下町として発展してきた。代表的な特産品は高遠城主のご用菓子として親しまれた高遠まんじゅうや高遠焼、地酒「仙醸」である。

### さくらの概要

高遠は南北朝時代の高遠氏に始まり江戸時代の内藤氏まで南信濃の中心地として栄えてきた。その後明治の廃藩置県により城が取り壊され辺りは一時荒廃したが、明治8年に有志の手で近くにあった桜の植樹が行われ高遠城址公園としての整備が始まり現在に至っている。この桜はタカトオコヒガンザクラというコヒガンザクラの仲間としては大木となり花も赤みが強い特種な桜で約1,500本に及ぶ樹林は県の天然記念物に指定されている。



### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

高遠町では夏には高遠城下まつり（7月下旬）、秋には高遠城址の秋まつり（10月下旬～11月上旬）、そして冬にはだるま市（2月11日）といった四季を通じて特色ある祭りを地域住民、商工会や地元企業及び町が一丸となって行ない、また、地域による景観形成や花のまちづくりの推進に取り組み魅力的な町づくりを進め、通年観光客100万人を目指している。更に、歴史にはぐくまれた名所旧跡や、弱アルカリ性で肌にやさしいと女性やお年寄りにも大変人気がある信州高遠温泉、信州高遠美術館、高遠歴史博物館等観光資源のPRを行ない、誘客へと結びつけている。また、交流都市である新宿区、会津若松市、猪苗代町、帰島が決まった三宅村ではイベントへの参加、物産展等を通じて盛んに交流を行ない、「信州高遠」の知名度向上に努めている。



## 岐阜県本巣市

### まちの概要

本年2月1日に本巣町、真正町、糸貫町、根尾村の3町1村が合併して本巣市となった。名古屋市の北西に位置し、北は福井県と境を接する山間部から南は濃尾平野の中ほどの平坦部にいたる。南北に細長くて、北に高く南に低い地形となっている。国指定天然記念物の淡墨桜がある旧根尾村を引継ぎさくらサミットに参加。

### さくらの概要

樹齢1,500余年の淡墨桜は、継体天皇のお手植えの桜と伝えられる。

桜では日本一の巨木といわれ、日本桜名所100選にも選ばれた。

国指定の天然記念物、蕾のときは薄いピンク、満開にいたっては白色、散りぎわには淡い墨色をおびてくる。

過去、幾度も枯死の危機に陥ったが、山桜の根継ぎによる回生手術や作家宇野千代女史ら各界の保護活動によって、現在も盛観を保ち、毎年4月上旬には全国から20万人もの観光客が訪れる。



### 桜の時期以外での観光の取り組みについて



桜の見頃は短くオフシーズンの対策が常に問題となる。

当市内で特に観光資源の多い根尾地域（旧根尾村）では、うすずみ温泉を中心とした「NEO桜交流ランド」、濃尾地震の震源地を活用した「根尾谷地震断層観察館」、大自然のパノラマのなかの「NEOキャンピングパーク」などを整備し、淡墨桜のある淡墨公園で「宗次郎うすずみコンサート」を

開催するなど桜とともに四季を通じた観光交流の拡大を目指している。

また、淡墨桜二世を金閣寺や出雲大社など全国各地に、海外では米国首都ワシントンDCなどに植樹し、情報発信と活性化を進めている。

「淡墨桜」の魅力を最大限に活かし、各施設と連携を強化し観光地での活力づくりを図っている。

## 奈良県吉野市

### まちの概要

吉野町は紀伊半島のほぼ中央に位置し、吉野杉や桜の美林に囲まれ、清流吉野川が町の中央を東西に流れる風光明媚な町です。一目千本と称される吉野山の桜を中心とした観光産業と、木材関連産業を基盤として発展してきました。南朝の哀史の里、山伏の宗教「修験道」の霊場としても名高く、数多くの人々が訪れています。

### さくらの概要

吉野の桜は、シロヤマザクラを中心に約3万本が、標高200mから800mの山肌に植えられています。平安時代の古今和歌集にも詠われている吉野の桜は1000年の歴史があり、修験道の本尊蔵王権現の聖木として信者による献木が古くから行われ、大切に保護されてきました。今夏、「紀伊山地の霊場と参詣道」の中核の一つとして、ユネスコの世界遺産に登録されたことにより、今後益々注目を浴びることとなるでしょう。

### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

吉野町は、桜のみならず、万葉の舞台、壬申の乱の勃発地、義経・静の別離の地、後醍醐天皇をはじめとする太平記の舞台等々、数多くの歴史が刻まれています。また、日本独自の山岳宗教「修験道」の霊場としての一面もあり、観光資源には枚挙の暇がありません。これらの観光資源の情報発信を行うとともに、伝統行事の他に観光資源を生かしたイベント（吉野 山灯りコンテスト・桜燈火・吉野町観光文化講座・吉野から奏でる万葉のしらべ等々）を実施して誘客を図っています。さらには、吉野山の神社仏閣の建造物や文化的景観がユネスコの世界遺産に登録され、町としてもその情報を全国に発信するとともに、その利活用を行なけばなりません。吉野の桜の根源である精神性や神秘性を情報発信し、年間を通じた誘客を図る取り組みを行いつつあります。

## 鳥取県西伯町

### まちの概要

鳥取県西伯郡西伯町は鳥取県の西部に位置し、人口約8,200人、面積は約83km<sup>2</sup>でその80%を森林が占める典型的な中山間です。

本町の南には人造湖である「緑水湖」があり、この湖を中心とした南さいはく自然休養村には、宿泊施設「緑水園」をはじめとし、キャンプ場やバンガロー、バーベキューハウス、アスレチックといった施設があり、緑豊かな観光スポットとして多くの人に利用して頂いています。

西伯町は10月1日には、お隣の西伯郡会見町と合併し、新たに「西伯郡南部町」としてスタートします。



### さくらの概要

町の中心部を流れる法勝寺川。その川沿いの土手には約4キロにわたって続くさくら並木があります。

開花時期は年により若干の違いはあるものの、4月第1週から第2週にかけて満開になります。この時期になるとその季節のはじまりを示すようにぼんぼりが灯り、多くの花見客で賑わいます。

このさくらは今からおよそ50年ほどまえに、町民の手で植えられ、今も、町民が参加するボランティア団体により管理していただいております。正に町民のさくらであるといえます。

### 桜の時期以外での観光の取り組みについて



毎年4月の第2週の土、日曜日に法勝寺地区において行われる伝統行事があります。

「一式飾り」といい、素材を一式に限定し（例えば漆器一式など）、人形や縁起物、その年の流行を表現する行事です。

この伝統行事には多くの方が訪れるのですが、今年は合併前最後となるため、またさくらの時期と重なることから「LAST西伯さくら祭り」と銘打ち、盛大なお祭りを行いました。

中でも、さくらと一式飾りを人力車に乗って楽しんでいただこうと企画した「お花見人力車」は、乗車された方、また見物にこられた方を大いに楽しませました。

ただ、今年はさくらが早く咲いたため葉桜となってしまう、「お花見」ができなかったのが非常に残念でした。

合併を目前に控えていますが、新しい町になっても今ある観光資源をそのままに、また合併により新しく生まれる観光資源を組み合わせ、よりよい観光への取り組みを

## 島根県木次町

### まちの概要

木次町は、中国山地から宍道湖に注ぐ斐伊川の中流域にひらけた人口約1万人、面積64.07km<sup>2</sup>の町です。古くから商業が栄え、雲南地域の政治、経済、交通の中心として発展してきました。「健康の町」を宣言し産業・教育文化の振興を図るとともに、「さくら」をキーワードに「さくら咲く健康の町づくり」を実践しています。

### さくらの概要

日本さくら名所100選に認定されている「斐伊川堤防桜並木」は斐伊川の清流に沿って約2kmにわたり、花の見頃には桜のトンネルとなり、中国地方随一の桜の名所としてその名を馳せています。明治の終わりに町民の手によって植えられはじめ、昭和の初めに土手の両側に植えられ、以来町のシンボルとなっています。昭和63年に第1回全国さくらサミット、平成15年に中国地方初の全国さくらシンポジウムが木次町で開催されました。



### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

健康農業の里シンボル農園「食の杜」は減農薬・無化学肥料栽培による「野菜」や「ぶどう」を生産、提供する約4haの農園で、収穫作業体験ができるほか、味と品質を追求した上質ワインを生産、販売している「奥出雲葡萄園ワイナリー」、昔懐かしい田舎のたずまいを残した農作業体験宿泊施設など木次町独自の健康農業が楽しめます。

出雲湯村温泉は、出雲風土記の時代より今なお変わらぬお湯が湧き続け、斐伊川の清流に望む山水の美に古くから文人、墨客が訪れこの地にとどまり多くの名作を残しています。また、この周辺には、ヤマタノオロチ伝説にまつわる神話の名所が多数あり伝説の地を求めて訪れる人も少なくありません。

## 島根県美都町

### まちの概要

美都町は、島根県の西部、中国山地の嶺線に近い中山間地帯にあり、総面積132.64km<sup>2</sup>の広さを持ち、全面積の87%が林野で占められています。

人口は2,700人。美都温泉、みと自然の森、ひだまりパークみと、秦佐八郎記念館、双川峡、四つ山、金谷城山桜などの観光施設があります。

### さくらの概要

金谷城山桜 かねだにじょうざんざくら

種類 エドヒガン 樹齢 570年

樹高 15m 幹周り 6.67m

由来 入船山城を築いた澄川氏が金谷の地に移り住んだ際に城の出丸部分にあたる所に植えたといわれています。



金谷城山桜

### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

本町は、ふるさと創生事業で掘り当てたみと温泉を核として、双川峡、秦記念館、スポーツ交流施設「ひだまりパークみと」などの施設を連携して町への入り込み客の増加を図っています。自然の豊かな本町ならではの施設としてバンガロー等がある「みと自然の森」は、心を癒してくれる施設として町外からの利用が増加しています。

## 長崎県大村町

### まちの概要

長崎県の中央部に位置し、西に大村湾、東に多良岳県立自然公園を臨む、東西12km、南北16km、総面積126.33km<sup>2</sup>を有する人口88,693人、34,542世帯（H16.7月末現在）の市。世界初の海上空港である長崎空港を有し、オフィスパーク大村、大村ハイテクパークの整備により、企業誘致に取り組んでいます。

### さくらの概要

大村公園は、大村藩主の居城であった玖島城跡で、約21haの広さを誇り、ソメイヨシノ1,500本、オオムラザクラ300本、八重桜200本とあわせて2,000本あります。中でも、国指定の天然記念物であるオオムラザクラは、八重桜の二段咲きで花卉



の総数が60~200枚もある優雅な花で、里桜中の名花と言われています。桜、花菖蒲など、3月25日から6月20日まで花まつりで賑わいます。



### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

本市には、大村公園、野岳湖公園、裏見の滝自然花苑、琴平スカイパークなどの観光地をはじめ、花まつり、夏越まつり、おおむら秋まつりなどの観光行事、黒丸踊りや浮立などの郷土芸能など多くの観光資源があり、4月の桜まつり、4~5月のしゃくなげまつり、5~6月の花菖蒲まつりなどとあわせて、大村公園の玖島城（大村城）跡、旧円融寺庭園（国指定文化財）、大村家墓碑群や幕末に活躍した楠本正隆の屋敷などを公開し、「花と歴史のまち大村」をキャッチフレーズに、主に福岡県などの都市部への観光PRを行い、年間70万人を超える観光客が訪れています。

大村市は、長崎県の中央部に位置し、世界初の海上空港、長崎自動車道など、長崎県の交通拠点として最も適した位置にあるため、観光コンベンションにも力をそそぎ、各種団体、企業、学会などの大会や会議、その他、スポーツ大会などの開催誘致を行い、参加者のみなさんが会議等を行う一方で観光によって心を癒し、また滞在してみたいと感じていただけるようなおもてなしに取り組み、「素通りのまち」から「ストーリーのあるまち」へ脱皮を図ろうとしています。



## 宮崎県北郷町

### まちの概要

北郷町は、周囲を緑の山々に囲まれた温泉と清流、そして人情味豊かな山間の町《宮崎の奥座敷》と呼ばれております。

たくさんの人々に親しまれている北郷温泉は、地下800mから湧き出る51℃の天然温泉で「美人の湯」として知られています。また、蜂之巣公園や花立公園では、春の桜・夏の紫陽花・秋の紅葉・冬の雲海など四季折々の景色が楽しめます。

### さくらの概要

春になると、まず山桜がかすむような緋色を競いあい、それから次々に北郷のいたる所で桜がほころび始めていきます。山から里へ、光のような淡い色彩を放ちながら、桜のウェーブが広がっていきます。また、標高489mの花立公園には、20ヘクタールの広い園内に染井吉野や山桜など1万本の桜があり、春には実に鮮やかに咲き誇る桜の名所となっています。



## 熊本県水上村

### まちの概要

熊本県の東南部、宮崎県との県境に位置し、総面積192.11km<sup>2</sup>のうち、約92%が森林に囲まれた人口約2,700人の村。日本三急流の一つ「球磨川」の源が、ここ水上村にある。

### さくらの概要

昭和35年に村の中央部に完成した多目的ダム「市房ダム」の周囲約14kmに、修景事業として一万本の桜が植栽された。その後、昭和59年に始まった「くまもと日本一づくり運動」のなかで、当時の県知事であった細川護熙氏の提唱により、「日本一の桜の里づくり」が始まった。現在、住民総参加の桜の下草刈り、空き缶・ゴミ拾い等、住民一人一人の手で育てられている。また、桜図鑑園には約80種類の桜の木が植栽されており、観光面での整備がなされている。



### 桜の時期以外での観光の取り組みについて

水上村では、平成9年度から卓越のムラづくり事業として、体験型観光「水の上の学校」を中心として、「水の上の市場」「さんぽマップづくり」「水上村ホームページ」の4本を柱として「水上ツーリズム」の取り組みを進めてきた。「水の上の学校」は、自然体験型観光として年間約20メニューのイベントを実施。地域資源を活用し、村民が



インストラクターとなり都市住民との交流を深めてきた。観光入込み客24万人以外に新しい形の交流人口が年間約2,000名に広がり、着実にリピーターの増加につながっている。水上ツーリズムでは、「つくる・話す・見つける」をコンセプトにイベント型を中心として都市農村交流を進めてきた。現在は、常時受け入れ型、修学旅行等の幅広い顧客の獲得に向け準備を進めている。